

生活関連の施策を推進

昭和53年度 施政方針

市長演説要旨

基本方針

愛情豊かな
文化観光都市
実現に努力

昭和五十三年第一回市議会定例会が、三月十日から十八日間の会期で開かれました。その冒頭で星野市長は、昭和五十三年年度の施政方針演説を行いました。施政方針演説では、住民福祉の充実と市民優先の市政を進めると共に、愛情豊かな文化観光都市実現のために、最大限の努力を払う決意を表明しました。

昭和五十二年は経済の年と言われながら、不況の波に洗われてしまいました。これに、円高が追い打ちをかけるなど、不況が深刻な社会問題になっています。当市の経済活動も多分にその影響を受けていますが、昭和五十二年年度の事業は予定通り執行の見通しがつきました。しかし、財政の

主柱である市税収入の伸びは、本年も期待できません。財源確保が容易でないため、多くの需要にこたえるには、どうしても市債依存度が高くなってしまいます。昭和五十三年度は、市民生活の基盤である環境整備を重点に行います。健康で住みよい街づくりのためには、下水道の整備や住宅建設、七里地区区画整理事業の推進などが必要です。また、勤労者福祉対策の一環として、融資制度を設けることにしました。市民体育館建設を中心課題として、愛情豊かな文化観光都市の実現を目指します。

予算規模

総額で五十一億
一千七十三万二千元

昭和五十三年年度の予算規模は、一般会計が四十億八千六百万円で、前年と比較しますと一六・六%の伸びになります。特別会計は、国民健康保険事業費が六億四千八百三十一万円、ユースホステル事業費は一千四百七十一万五千円、小来川診療所費が二千三百九十一万七千円です。企業会計は、リフト事業会計が一億四千二百三十八千円、水道事業会計は一億九千五百七十五万一千円です。一般会計と特別会計、企業会計を合わせると、総額五十一億一千七十三万二千元になり、前年と比較しますと、一五・二%の伸びになります。

ことし行う主な仕事

(単位千円)

都市関係	
土地区画整理に	11,876
街路の整備に	27,000
交通通信関係	
市道の舗装と改良に	84,500
橋りょうの整備に	63,100
河川の整備に	4,000
教育関係	
校舎の増築と補修に	75,600
遠距離通学者の通学費補助に	5,200
父母負担の軽減に	7,300
奨学資金の貸し付けに	4,300
市民体育館の建設に	88,500
図書館設備の整備に	5,100
市史の編さんに	31,700
生活環境関係	
焼却灰埋立地の造成に	8,500
下水道の整備に	201,000
上水道に	7,800
住宅関係	
市営住宅建設と道路舗装に	163,800
勤労者の住宅資金に	10,000
防災関係	
防災施設の整備に	109,300
救急医療に	2,000
交通安全に	9,300
農業関係	
かんがい排水の整備に	12,100
農道の整備に	29,000
林道振興地域の整備に	39,100
林道の開設に	68,000
商工・観光関係	
中小企業の育成に	130,000
公衆便所と駐車場の整備に	7,300
観光協会の振興に	11,800
その他	
庁舎の建設基金に	50,000
日光小の建設基金に	100,000
国保会計の繰出金に	29,000
広域行政の分担金に	88,800
国体の準備に	34,900

表紙のことば

シリーズ

日光ゆかりの文人

窪田空穂

「五月なほふかきみ雪の男体の山にとけては湖となる」(窪田空穂)

二荒山神社中宮祠境内、宝物館前庭に、湖を背に、男体山を見上げるような姿の空穂歌碑がある。当初八脚門の近くにあったこの碑は、伊豆小松石。空穂の縁故者と「地上社」の有志が建立。昭和三十一年十一月六日に、長男章一郎氏が出席して除幕式を行った。窪田空穂は、明治十年長野県生まれ、二十三歳で歌作を始め、後にわが国歌壇の重鎮となった人。また偉大な国文学者でもあり、早大教授のかたわら、おびただしい数の詩歌・紀行文・小説・評論を書き続け、「万葉集評釈」「古今和歌集評釈」など、すぐれた作品がある。歌風は、客観性を重んじて、生活実感を歌いあげ、抒情性に富む。昭和三十三年には、八十二歳で、文化功労者に選ばれた。昭和四十二年、九十歳の高令で天寿を完うした。